

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
外国語学部	国際言語学科	夜・通信	16	14	19	49	13	
人間科学部	健康栄養学科	夜・通信	12	10	67	89	13	
	理学療法学科	夜・通信	2	38	68	108	13	
	作業療法学科	夜・通信	3	37	61	101	13	
	看護学科	夜・通信	2	10	114	126	13	
	こども発達学科	夜・通信	2	8	170	180	13	
国際学部	国際教養学科	夜・通信	2	10	22	34	13	
	国際コミュニケーション学科	夜・通信	6	10	10	26	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="http://do-bunkyo.ac.jp">UNIVERSAL PASSPORT EX (do-bunkyo.ac.jp)</a>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[平成21年度 鶴岡学園事業報告 \(do-bunkyo.ac.jp\)](https://do-bunkyo.ac.jp)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	恵庭体育館	R2. 7. 1～ R4. 6. 30	地域貢献担当 恵庭市内に長く勤務していた経歴を活かし、地域貢献の視点から、学園の運営に携わる。
非常勤	株式会社玉川組	R2. 7. 1～ R4. 6. 30	会社を経営する等、地域経済界で活躍している経歴を活かし、会社経営の視点から学園の運営発展に携わる。
(備考) 非常勤理事4名中2名を記載			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>開講前年度の12月までに来年度の授業を計画し、2月中旬を期限としてシラバスの作成、ポータルシステムへの登録へと進めている。教員には「シラバスの作成に関する研修会について」のFD研修会を開催し、資料「シラバス作成要領」に基づき、①授業の位置づけ、②授業の概要、③到着目標、④授業の方法、⑤ICT活用、⑥実務経験のある教員の教育内容、⑦課題に対するフィードバックの方法、⑧授業計画(学習内容、準備事後学習)⑨成績評価の方法、⑩教科書、⑪参考文献などを示している。シラバス作成後は、シラバスチェック専門部会規程により選出されたシラバスチェック委員により、全科目のシラバスが「シラバスチェック要領」に基づいて内容確認が行われ、3月下旬にWEB公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="http://UNIVERSAL_PASSPORT_EX.do-bunkyo-dai.ac.jp">UNIVERSAL PASSPORT EX (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目について、事前にシラバスに記載された「評価の方法」に基づき評価を行い、単位を与えると共に、入学前に教育機関で得た単位について学内の委員会で審議を行い、適当と判断されたものについて単位を認定している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価においては、客観的な指標の設定としてGPAを算出する制度を定めている。GPAの公表方法として、学生への通知は成績通知表に学期GPA及び通算GPAを表示することを行い、成績証明書には記載しない。各学科にはGPAに基づく学習指導の計画を策定し、学生の学修指導を行うものとする。学期GPAが4期連続1.0未満となった場合は退学を勧告する。GPAの算出方法は以下のとおりで、計算値は小数点第3位以下を四捨五入して標記する。</p> <p>学期GPA  <math display="block">\frac{\text{(当該期に評価を受けた学科のGP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{当該期の総履修登録単位数}}</math></p> <p>通算GPA  <math display="block">\frac{\text{(各学期に評価を受けた科目のGP} \times \text{その科目の単位数) の総和}}{\text{総履修登録単位数}}</math></p> <p>※GPとは各授業科目の5段階の成績評価に対応した評点(グレードポイント)</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><a href="http://do-bunkyo-dai.ac.jp">学生便覧 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学科ごとに学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を策定し、それに基づきカリキュラムを編成・実施しており、いずれも公表している。

■国際言語学科 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（国際言語学）」の学位を授与する。

- ・英米語コースでは、英語を実践的に運用できる知識とスキルを身につけている。（知識・技能）
- ・観光・ビジネスコースでは、グローバルに展開する当該産業を理解し、実践に応用可能な知識および英語の技能を身につけている。（知識・技能）
- ・4技能（聴く、話す、読む、書く）の運用能力を高め、実践の場で活用することができる。（知識・技能）
- ・目指す産業界が求める技能に習熟し、実践の場で活用することができる。（知識・技能）
- ・グローバル社会の人々との信頼関係を構築し、異文化社会に対する正しい理解と協調の精神を持つことができる。（関心・意欲・態度）
- ・日常生活で適切な道徳観、倫理観を持ち、主体的に行動する。（関心・意欲・態度）
- ・問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる。（思考・判断・表現）

■健康栄養学科 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、以下の能力を身につけていると認められた学生に「学士（栄養学）」の学位を授与する。

- ・地域社会の生活習慣病予防・健康増進、および臨床の場において必要とされる高度な専門知識を体系的に身につけている。（知識・技能）
- ・科学的根拠に基づいて、人を対象とした適切な栄養指導・教育を行うために必要な知識・技術を身につけている。（知識・技能）
- ・特定給食施設において適切なマネジメントを行い、特定多数人に継続して適切に栄養管理された食事を提供するための知識・技術を身につけている。（知識・技能）
- ・学んだ知識とその理解を基盤として、健康・栄養に関する問題について適切に情報を収集し、科学的に分析・検証することができる。（思考・判断・表現）
- ・対象者の栄養管理、栄養教育を行うために必要なコミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）
- ・組織における管理栄養士設置部門や給食の運営に関する部署を統括・管理するためのマネジメント能力とチームを率いるリーダーシップを持っている。（思考・判断・表現）
- ・協同する医療・保健チームの中で適切な活動を行うことができる。（関心・意欲・態度）
- ・人々の健康の保持・増進に貢献する自覚と意欲をもち、積極的に行動し、必要な情報を発信することができる。（関心・意欲・態度）
- ・地域包括ケアシステムにおいて「食・栄養」の視点から、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が切れ目なく一体的に提供することができる。（関心・意欲・態度）

■理学療法学科 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（理学療法学）」の学位を授与する。

- ・理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)
- ・理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)
- ・理学療法学における課題を論理的に探究する能力を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)
- ・医療に関わる他の職種役割を理解し、協力関係を築くことができる。  
(関心・意欲・態度)
- ・幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。(関心・意欲・態度)
- ・理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)

■作業療法学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士 (作業療法学)」の学位を授与する。

- ・作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)
- ・作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)
- ・作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。(知識・技能)
- ・作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。(関心・意欲・態度)
- ・根拠に基づく作業療法 (E B O T) 実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決方法をみいだせる。

■看護学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

所定の過程をおさめ、124 単位以上の単位修得と必要単位を満たし、看護の発展と社会へ貢献できる能力及び社会的責任感が身についた人物に学位を授与する。

- 1-1 社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身に着けている。(思考・判断・表現)
- 1-2. 看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている。(知識・技能)
2. 看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)
3. 看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)
4. 多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。(知識・技能)
- 5-1. 学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。(関心・意欲・態度)
- 5-2. 科学的思考力と創造的思考力を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)

■こども発達学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士 (こども発達学)」の学位を授与する。

- ・こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、障がい児を有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。  
(知識・技能)
- ・教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)
- ・さらに、保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。(知識・技能)
- ・教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている。  
(思考・判断・表現)
- ・変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)
- ・今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く考慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)

#### ■国際教養学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士(国際学)」の学位を授与する。

- ・学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力(技能・表現力)を身につけている。(知識・技能)
- ・北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。  
(知識・技能)
- ・北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)
- ・世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)

#### ■国際コミュニケーション 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士(国際学)」の学位を授与する。

- ・学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力(技能・表現力)を身につけている。(知識・技能)
- ・世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を身につけている。(知識・技能)
- ・北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。  
(知識・技能)
- ・世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。(関心・意欲・態度)
- ・世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)

卒業の認定に関する 方針の公表方法	<a href="http://do-bunkiyodai.ac.jp">3 つのポリシー - 北海道文教大学 (do- bunkiyodai.ac.jp)</a>
----------------------	--



様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.do-bunkyo-dai.ac.jp">事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.do-bunkyo-dai.ac.jp">事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a>
財産目録	<a href="https://www.do-bunkyo-dai.ac.jp">事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a>
事業報告書	<a href="https://www.do-bunkyo-dai.ac.jp">事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.do-bunkyo-dai.ac.jp">事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: 中期計画 2024 )	対象年度: 2020 年度~2024 年度 )
公表方法: <a href="https://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/pdf/plan2024.pdf">https://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/pdf/plan2024.pdf</a>	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.do-bunkyo-dai.ac.jp">認証評価及び自己点検・評価 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.do-bunkyo-dai.ac.jp">認証評価及び自己点検・評価 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際言語学科
教育研究上の目的（公表方法： <a href="http://do-bunkyo-dai.ac.jp">国際言語学科 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a> )
(概要) 真のグローバル・コミュニケーターになるために、まず英語を中心とした外国語能力を徹底的に磨く。そして現代世界の政治や経済を理解し、互いの文化を受容できる広い視野を育てる。
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="http://do-bunkyo-dai.ac.jp">3 つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a> )
(概要) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） 履修規定によって必要単位を取得し、必要な修年年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（国際言語学）」の学位を授与する。 ・英米語コースでは、英語を実践的に運用できる知識とスキルを身につけている。（知識・技能） ・観光・ビジネスコースでは、グローバルに展開する当該産業を理解し、実践に応用可能な知識および英語の技能を身につけている。（知識・技能） ・4 技能（聴く、話す、読む、書く）の運用能力を高め、実践の場で活用することができる。（知識・技能） ・目指す産業界が求める技能に習熟し、実践の場で活用することができる。（知識・技能） ・グローバル社会の人々との信頼関係を構築し、異文化社会に対する正しい理解と協調の精神を持つことができる。（関心・意欲・態度） ・日常生活で適切な道徳観、倫理観を持ち、主体的に行動する。（関心・意欲・態度） ・問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる。（思考・判断・表現）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="http://do-bunkyo-dai.ac.jp">3 つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a> )
(概要) 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） 本学の地理的特性を生かすために、英米語コースと観光ビジネスコースを設け、大学での学びと自らの進路が効果的に連動するよう教養科目と専門科目からなる教育課程を編成している。 1. 教育内容 (知識・技能) ・英語の 4 技能の運用能力を高めるために「語学重点」科目群を配置する。 ・英語を媒体として観光を学ぶ学科として「All English」の科目群を配置する。 ・英語を学ぶ上での前提となる正しい日本語を理解することを目指すために「日本語」の科目群を配置する。 ・英米語コースでは学んだ英語を手段として、自己の主張・目的を達成する能力を養成するために「英米語」の科目群を配置する。

- ・観光・語コースでは、北海道の持つ観光資源を理解し、これを国内外に広く発信し、ビジネスにつなげていく能力を養成するための「観光・ビジネス」の科目群を配置する。  
(思考・判断・表現)
- ・学生の主体的な学習能力を育成し、豊かな学生生活が送れるように、1年次に「基礎ゼミ」を配置する。(関心・意欲・態度)
- ・異文化社会に対する理解と協調の精神を培う科目として異文化理解論、国際関係論等の科目を配置する。
- ・適切な道徳観、倫理観を養うための科目を「日本語」分野の中に複数配置する。

## 2. 教育方法

- ・少数人数による、きめ細やかな指導を行い、実践的な能力の向上をはかる。

## 3. 教育評価

- ・科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo.ac.jp)) )

(概要)

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

大学卒業後に国際社会で即戦力となれる人材を育てるために、大学在学中での実践的な語学教育カリキュラムを希望する次のような学生を受け入れます。

(知識・技能)

- ・高等教育までに履修した英語などの基本的内容を理解し、高等教育卒業相当の知識を有している人。

(思考・判断・表現)

- ・対人コミュニケーション、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートの基本能力を身につけ、ICTなどの知識を活用し、適切な情報発信ができる人。

(関心・意欲・態度)

- ・グローバル社会に相応しい語学力や業界知識を身につけ、世界の舞台で活躍したいと努力する人。
- ・自分の現状に満足せず、さらに高い目標に向かって努力する人。
- ・自分の現状に満足せず、さらに高い目標に向かって努力しようとする人。
- ・仲間と協働することを楽しみ、自分と異なる価値観に対しても敬意を持てる人。

学部等名 健康栄養学科

教育研究上の目的（公表方法：[健康栄養学科 - 北海道文教大学 \(do-bunkyo.ac.jp\)](http://健康栄養学科-北海道文教大学(do-bunkyo.ac.jp)) )

(概要)

「食」を通じて人々を幸せにする「もてなしの心」を持った管理栄養士を目指す。管理栄養士だけでなく様々な資格取得の支援はもちろん、健康・栄養のスペシャリストとして幅広く活躍するためのカリキュラムを受けられます。カリキュラム修了時には、管理栄養士国家試験の受験資格を得ることができる。

卒業の認定に関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo.ac.jp\)](http://do-bunkyo.ac.jp) )

(概要)

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、以下の能力を身につけていると認められた学生に「学士（栄養学）」の学位を授与する。

- ・地域社会の生活習慣病予防・健康増進、および臨床の場において必要とされる高度な専門知識を体系的に身につけている。（知識・技能）
- ・科学的根拠に基づいて、人を対象とした適切な栄養指導・教育を行うために必要な知識・技術を身につけている。（知識・技能）
- ・特定給食施設において適切なマネジメントを行い、特定多数人に継続して適切に栄養管理された食事を提供するための知識・技術を身につけている。（知識・技能）
- ・学んだ知識とその理解を基盤として、健康・栄養に関する問題について適切に情報を収集し、科学的に分析・検証することができる。（思考・判断・表現）
- ・対象者の栄養管理、栄養教育を行うために必要なコミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）
- ・組織における管理栄養士設置部門や給食の運営に関する部署を統括・管理するためのマネジメント能力とチームを率いるリーダーシップを持っている。（思考・判断・表現）
- ・協同する医療・保健チームの中で適切な活動を行うことができる。（関心・意欲・態度）
- ・人々の健康の保持・増進に貢献する自覚と意欲をもち、積極的に行動し、必要な情報を発信することができる。（関心・意欲・態度）
- ・地域包括ケアシステムにおいて「食・栄養」の視点から、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が切れ目なく一体的に提供することができる。（関心・意欲・態度）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo.ac.jp\)](http://do-bunkyo.ac.jp) )

(概要)

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

- ・社会で活躍する管理栄養士に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教養課程を編成する。
  - ・栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、栄養教諭一種免許、食品衛生管理者及び食品衛生監視員（任用資格）を取得することができる。
1. 教育内容（知識・技能）
- ・多様な学生に対応するため、高校で学んだ内容も含んだ基礎的な科目を配置する。
  - ・栄養学、健康と病気の概念の理解に必要な専門基礎科目として「社会・環境と健康」「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」「食べ物と健康」の科目群を配置する。
  - ・管理栄養士が活躍する職場で必要とされる知識・技術を身につけるための専門科目として「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」の科目群を配置する。
- (思考・判断・表現)
- ・管理栄養士の業務に関する科学的根拠に基づく適切な計画・実行・評価・判定を行う能力を養うため「総合演習」「総合（卒業研究）」「臨地実習」の科目群を配置する。
- (関心・意欲・態度)
- ・現場で管理栄養士が必要とされるスキルを身に付けるため、「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「給食経営管理論」「総合演習」「臨地実習」の科目群を配置する。

<p>2. 教育方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数教育を演習、実習で実施し、学生の能力に応じた教育ができるようにする。</li> </ul> <p>3 教育評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。</li> </ul>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="http://3つのポリシー-北海道文教大学(dobunkuyodai.ac.jp)"><u>3つのポリシー - 北海道文教大学 (dobunkuyodai.ac.jp)</u></a>）</p> <p>(概要)</p> <p>学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>社会において管理栄養士として活躍し、人々の健康と社会の福祉に貢献したいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある人を受け入れます。</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理栄養士の学術的根拠となる栄養学を学ぶために、必要となる生物や化学、国語などの基本的学力および一般的な計算能力を身につけている。</li> </ul> <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対し「どこが問題なのか」「解決には何が必要か」などを自分で考えることができる人。</li> </ul> <p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・実習などにおいて、他者と協働して作業を行うことができる態度を身につけている人。</li> </ul>

<p>学部等名 理学療法学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://理学療法学科-北海道文教大学(dobunkuyodai.ac.jp)"><u>理学療法学科 - 北海道文教大学 (dobunkuyodai.ac.jp)</u></a>）</p> <p>(概要)</p> <p>充実した設備を使用して、幅広い教養と専門性の高い知識や技術を学び、「人」の心に寄り添える理学療法士を養成する。これまでに 1,000 名を超える理学療法士が病院・施設はもちろんのこと、予防医学分野、スポーツ分野、健康増進分野で活躍している。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="http://3つのポリシー-北海道文教大学(dobunkuyodai.ac.jp)"><u>3つのポリシー - 北海道文教大学 (dobunkuyodai.ac.jp)</u></a>）</p> <p>(概要)</p> <p>学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（理学療法学）」の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。（知識・技能）</li> <li>・理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。（知識・技能）</li> <li>・理学療法学における課題を論理的に探究する能力を身につけている。（思考・判断・表現）</li> <li>・対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。（関心・意欲・態度）</li> <li>・医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。（関心・意欲・態度）</li> <li>・幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。（関心・意欲・態度）</li> <li>・理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）</li> </ul>

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[3つのポリシー – 北海道文教大学 \(do-bunkvodai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkvodai.ac.jp)) )

(概要)

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

理学療法士に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科学、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。理学療法士国家試験受験資格を得ることができる。

1. 教育内容

(知識・技能)

- ・理学療法士の知識・技術修得の起案となる専門基礎科目として「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」の科目群を配置する。
- ・理学療法士としての専門性を高める専門科目として「基礎理学療法学」「物理療法評価学」「理学療法治療学」「地域理学療法学」「物理療法治療学」「基礎理学療法学」の科目群を配置する。

(思考・判断・表現)

- ・理学療法分野における課題を探究する能力を養うために、4年次研究（理学療法研究Ⅰ、Ⅱ）につながる科目群（理学療法研究法、理学療法研究セミナー）を配置する。
- ・臨床場面における実践力・コミュニケーション能力を養うため「臨床実習」の科目群を配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・医療にかかわる他の職種と適切な連携をとることができる人材を養成するためにチーム医療概論および「臨床実習」の科目群を配置する。

2. 先進的な研究成果の理解力、課題探究能力、論理的解決能力を身に付けるための科目群は少人数ゼミ形式で研究の基礎を学ぶための教育を展開する。

3. 教育評価

- ・科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3つのポリシー – 北海道文教大学 \(do-bunkvodai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkvodai.ac.jp)) )

(概要)

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

理学療法士として高度な専門知識・技術を有し、リハビリテーションチームの一員として活躍したいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある次のような人を受け入れる。

(知識・技能)

- ・理学療法を学ぶために必要な基礎学力を持つ人。

(思考・判断・表現)

- ・論理的に考え自ら判断できる人。
- ・自分の考えをわかりやすく説明できる人。

(関心・意欲・態度)

- ・多様な生き方や考え方を理解できる人。
- ・周囲に配慮し協力して行動できる人。
- ・医療や介護の現場でリハビリテーションに関わりたい人。
- ・人間の運動・動作のメカニズムについて学びたい人。
- ・障がいのある人のために貢献したい人。
- ・スポーツをする人のために貢献したい人。
- ・がん患者のリハビリテーションに関わりたい人。
- ・高齢者の健康維持・増進のために貢献したい人。



学部等名 作業療法学科
教育研究上の目的（公表方法： <a href="http://do-bunkyo-dai.ac.jp">作業療法学科 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a> ）
<p>（概要）</p> <p>開設当初より、新たな価値の発見と創造である「面白い」という言葉を学科のキーワードにしている。身体だけではなく頭と心も柔軟に使う、新しい考え方を発見し創造するという面白さが詰まった授業を展開している。病気や障がいを持つ方を含め、全ての人々の生き生きとした人生の実現を目指す作業療法を楽しみながら学ぶことで、国家試験合格を実現する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="http://do-bunkyo-dai.ac.jp">3つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a> ）
<p>（概要）</p> <p>学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（作業療法学）」の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。（知識・技能）</li> <li>・作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。</li> </ul> <p>（知識・技能）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。（知識・技能）</li> <li>・作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。</li> </ul> <p>（思考・判断・表現）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。（関心・意欲・態度）</li> <li>・根拠に基づく作業療法（EBO T）実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決方法をみいだせる。</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="http://do-bunkyo-dai.ac.jp">3つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</a> ）
<p>（概要）</p> <p>教育課程の変遷・実施方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>1. 教育内容</p> <p>（知識・技能）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法士の知識・技術修得の基盤となる専門基礎科目として「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」の科目群を配置する。</li> <li>・作業療法士としての専門性を高める専門科目として「基礎作業療法学」「作業療法管理学」「作業療法学」「地域作業療法学」「臨床実習」の科目群を配置する。</li> </ul> <p>（思考・判断・表現）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床場面における実践力・コミュニケーション能力を養うため「臨床実習」の科目群を配置する</li> <li>・作業療法分野における課題を探究する能力を養うために、作業療法研究法演習Ⅰ、Ⅱを配置する。（関心・意欲・態度）</li> <li>・作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自立性と個別性を尊重できる態度を養うために生活行為向上作業療法学を配置する。</li> </ul> <p>2. 教方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題発見とその解決および論理的思考を養うために課題について能動的に自ら探究することを重視した教育（アクティブラーニング）を実施する。授業の事前・事後における</li> </ul>

<p>主体的な学修を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的な好奇心すなわち問題発見能力を養うために、また、コミュニケーション能力を高めるために、グループ学習など対話型・学生参加型の授業法を取り入れる。</li> <li>・作業療法士としての基本的技能を身につけるために、臨床実習はクリニカルクラークシップ（臨床参加型臨床実習）形式で行う。</li> <li>・評価結果について、学生に十分なフィードバックを行う。</li> </ul> <p>3. 教育評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果の把握のために、各科目における到達目標を明確に提示し、成績評価を厳格に行う。</li> <li>・筆記試験に加え、OSCE（客観的臨床能力試験）、ポートフォリオ、ルーブリックなどを用いた多面的で質の高い評価を行う。</li> </ul>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)"><u>3つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</u></a> )</p> <p>(概要)</p> <p>学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>作業療法士として高度な専門的知識・技術を有した人間性豊かな臨床実践家として活躍したいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある次のような人を受け入れる。</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力を備えている人。</li> </ul> <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人の言葉や文書の意味を正しく理解でき、自分の考えを文章や言葉ではっきりと表現することができる人。</li> <li>・人間の構造・機械のメカニズムや、生活とその背景について、様々な疑問を持ち想像をめぐらすことができる人。</li> <li>・作業療法に強い興味を持ち、積極的に学び続けようとする人。</li> </ul> <p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟で誠実な姿勢で人に関わることができる人。</li> </ul>

<p>学部等名 看護学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://看護学科-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)"><u>看護学科 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</u></a> )</p> <p>(概要)</p> <p>主体的に学ぶための基盤となる時間管理などを含む社会人基礎力を身に着けた看護師を輩出するための教育を行っている。基礎学力を身に着けていることはもちろんだが、何よりも看護師を目指す動機と、なりたいという意欲が明確である人材を求めています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)"><u>3つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</u></a> )</p> <p>(概要)</p> <p>学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>所定の過程をおさめ、124単位以上の単位修得と必要単位を満たし、看護の発展と社会へ貢献できる能力及び社会的責任感が身についた人物に学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1-1 社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身に着けている。（思考・判断・表現）</li> <li>・1-2. 看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている。（知識・技能）</li> </ul>



2. 看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)
3. 看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)
4. 多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。(知識・技能)
- 5-1. 学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。(関心・意欲・態度)
- 5-2. 科学的思考力と創造的思考力を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：[3つのポリシー – 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)))

(概要)

教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

看護の専門知識修得と対象に必要な看護実践ができるように、基礎看護学、精神看護学、地域在宅看護学を基盤として発達段階別の科目と1年次から4年次まで看護の統合と実践に関する科目を体系的、段階的に配置する。

#### 1. 教育内容

(知識・技能)

- ・対象理解能力を育成するため、体系的に抗議・演習科目を配置したのち集大成として実習科目を配置する。
- ・保健医療福祉における多職種連携能力を育成するため、他学科との合同科目を配置する。
- ・保健医療福祉における多職種連携能力を育成するため、重要性が理解できるように地域包括ケアシステムに関連した科目を配置する。

(思考・判断・表現)

- ・社会の一員としての責任感を育成するため、キャリア形成に向け行動できるように1年次に基礎講座、2年次から4年次にかけてキャリア形成関連科目を配置する。
- ・専門職倫理観を育成するため、看護の対象となる人々の権利を擁護でき、高い倫理性を持つことができるように講義・実習科目を配置する。
- ・臨床判断能力を育成するため3年次に「看護臨床判断」、4年次に「臨床判断実習」と段階的に配置する。
- ・国際的視野を育成するため、外国語を用いて読み、書き、聴き、話すこと、看護の専門性を生かして国際貢献に関心が持てるように、外国語と国際保健に関する科目を配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・ICTや電子カルテが活用できるように情報処理関連の科目を配置する。

#### 2. 教育方法

- ・キャリア形成に向けて行動できるように卒業到達度を学生へ明示する。
- ・コミュニケーション能力を育成するため、「読む、書く、聴く、話す」を使いこなせるように講義、演習、実習のすべての科目においてアクティブラーニングを活用する。
- ・看護の対象である人々に真摯に向き合い理解することができるように当事者の講話を聴く機会を設ける。
- ・臨床判断や看護過程の展開能力を育成するため、他者の意見を取り入れて思考を深めることができるようにアクティブラーニングを活用する。
- ・看護の専門知識を修得するため、対象者に必要な看護実践ができるように多様な実習施設を配置する。
- ・人々の健康課題解決のため、看護技術を活用できるように紙上事例などのシミュレーション教育を導入する。
- ・看護の実践イメージができるように看護実践者が授業に参加する機会を設ける。

- ・学習への主体性を育成するため、看護の対象を理解しようと素直に努力することができることや、学習の必要性を自覚できるように、すべての科目でアクティブラーニングを活用する。
  - ・冷静に自己を見つめることができるように講義、演習、実習のすべての科目において、横断的に対話による内省を活用する。
3. 教育評価
- ・ヒューマンケアの基本的な能力を、各科目の到達目標に応じた評価基準を明らかにし、レポートなどにより適切に評価する。
  - ・看護の基盤となる問題解決能力を、各科目の到達目標に応じた思考・判断・表現の基準を用いて技術試験などにより適切に評価する。
  - ・看護の専門知識を、各科目の特性に応じた評価基準を明らかにし、試験及びレポートなどの成果物により客観的に評価する。
  - ・研究の基本的な能力を各科目の到達目標に応じて評価基準を明らかにし、レポートなどにより適切に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)) )

(概要)

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な以下の能力のある人材を求めます。

(知識・技能)

- ・人の話を聴いて理解し発言する能力を活用して人間関係を形成できるコミュニケーション能力がある人。

(思考・判断・表現)

- ・多様な価値観を認める柔軟性がある人。
- ・自ら課題を見つけ探究する能力がある人。
- ・科学的思考力と論理的思考力の基礎を身につけている人

(関心・意欲・態)

- ・学校生活あるいは社会の中で責任ある行動をとる努力ができる人。
- ・人々を尊重し、社会的規範を守り礼儀正しく人と接することができる人。
- ・看護を学ぶための学習に意欲的で、看護職への志望動機が明確である人。
- ・学習習慣が身につけており、自己管理ができる人。
- ・自身の行動を振り返り、自分を高め続けようとする姿勢が身につけている人。

学部等名 こども発達学科

教育研究上の目的（公表方法：[こども発達学科 - 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://こども発達学科-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)) )

(概要)

こどもにそそぐ愛情に溢れ、幅広い視野を持った教育者・保育者を育てたいと願っている。幅広い視野を持つためには、教育を学校の中だけではなく、広く地域社会や福祉の分野、さらにはスポーツやアートの分野にも関心を持っていく必要がある。また何より教育・保育の専門家として、最新の知見を基に知性を深め、力量を高めるために、こどもへの愛情と豊かなこころを身に付けることが大切である。幅広い視野と深い人間性を身に付けようと考えている人を歓迎する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)) )

(概要)

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（こども発達学）」の学位を授与する。

- ・こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。

(知識・技能)

- ・教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。（知識・技能）
- ・さらに、保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。（知識・技能）
- ・教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）
- ・変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）
- ・今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く考慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)) )

(概要)

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

幼稚園・小学校・特別支援の教育者及び保育者に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。{「保育士免許」「幼稚園教諭一種免許状」「小学校教諭一種免許状」}{「保育士資格」「幼稚園教員一種免許状」「特別支援学校教諭一種免許状」}{「幼稚園教諭一種免許状」「小学校教諭一種免許状」「特別支援学校教諭一種免許状」}のいずれかの組み合わせで3つの資格・免許を取得することができる

1. 教育内容（知識・技能）

- ・初年次は基礎ゼミ等による科学的探究方法への入門教育や、文章表現能力形成等の基礎教育に加え、こどもの成長・発達やそれを実現する教育についての科目を配置する。
- ・教育・保育・子育て支援に関わる者として求められる知識・能力を養うため、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものそれぞれについて広く学ぶための科目を配置する。
- ・さらに、保育者・教育者・子育て支援者のいずれについて一層深い知識を身につけるための科目を配置する。

(思考・判断・表現)

- ・教育・保育・子育て支援に関わる者としての実践力・コミュニケーション能力を養うため「学外・校外実習」の科目群を配置する。
- ・主体的・探究的に教育・保育のあり方を考える能力を養うために、卒業研究Ⅰ、Ⅱを配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・こどもの幸せを願い、こどもとともに成長することを喜びとする資質をベースに、教育者・保育者としての資質・能力を形成するために、心理学・教育学・特別支援教育学等の科学的見地を学習する科目を配置する。

<p>2. 教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次の基礎ゼミは少人数から行う。</li> <li>・実習の前後に実習準備の講義、反省の事後指導を配置するなどして、理論と実践の結合を図り、実践能力を形成する。</li> </ul> <p>3. 教育評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。</li> </ul>
--

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学.do-bunkyo.ac.jp) )

<p>(概要)</p> <p>学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>こどもへのかかわりを求める資質を開花させる目的意識があり、こどもに関する教育学・保育学・特別支援教育学等の科学的理論、学問、さらには実習等の実践的な学修を意欲的に行う意思のある次のような人を受け入る。</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本的な知識・技能を習得するための勉学の習慣をもっている人。</li> </ul> <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をもっている人。</li> </ul> <p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの生活や成長に強い関心を持ち、何事にも積極的にチャレンジする意欲のある人。</li> <li>・いろいろな人とのかかわり、意思や思いを伝えあいたいと願う人、コミュニケーション能力を常に高めたいと考える人。</li> <li>・目標の実現に向かって努力を続ける学習意欲をもっている人。</li> <li>・広い視野を持つ努力を怠らず、人々の生活に幅広く目を向け、論理的思考を持ち、バランス感覚に優れた人格でありたいと願う人。</li> </ul>
---

学部等名 国際教養学科

教育研究上の目的（公表方法：[国際教養学科 - 北海道文教大学 \(do-bunkyo.ac.jp\)](http://国際教養学科-北海道文教大学.do-bunkyo.ac.jp) )

<p>(概要)</p> <p>グローバル+グローバル</p> <p>地球規模で考える+地域・地元を熟知する、グローバルとローカルのいいこと取りがグローバル。世界に通用する考えで、地域・地元文化を理解し、世界とつながる地域社会の発展に貢献できる人材を育てる。</p>
--

卒業の認定に関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学.do-bunkyo.ac.jp) )

<p>(概要)</p> <p>学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（国際学）」の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力（技能・表現力）を身につけている。（知識・技能）</li> <li>・北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界</li> </ul>
--

諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。

(知識・技能)

- ・北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)
- ・世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：[3つのポリシー – 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)))

(概要)

教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

「グローバル人材」と「グローバル人材」の素養を併せ持つ「国際教養人」の育成のため、「全学共通科目」、「学部共通科目」、「国際教養科目」、「キャリア形成」、「語学研修」、「卒業研究」を編成する。

1. 教育内容 (知識・技術)

- ・学術的調査・研究のための英語を学ぶ「国際教養英語」科目群を配置する。
- ・社会科学から見る国際関係を学ぶ「国際政治経済」科目群を配置する。
- ・世界諸地域の文化や社会について学ぶ「国際地域研究」科目群を配置する。

(思考・判断・表現)

- ・地元地域について学び、地域振興や地域貢献、またキャリア意識にもつなげる北海道スタディーズ科目群を配置する。
- ・各学科の専門科目などを通じた学修を基に、自分が専門的に研究するディシプリンを定めた上で参加する「卒業研究プロジェクトⅠ～Ⅱ」を配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・地元地域について学び、地域振興や地域貢献、またキャリア意識にもつなげる北海道スタディーズ科目群を配置する。

2. 教育方法

- ・人材養成の目的に則して、講義形式の授業の他に、学生の主体的な学びを引き出すために、少人数授業、習熟度別授業、双方向・学生参加型授業、課題解決・探究型授業、ICTを活用した授業などのアクティブ・ラーニングを実践する。
- ・研修 (国内外)、海外留学、インターンシップ (国内外)、アウトドアツーリズムなどの体験的な学修活動の充実を図るなど、教育方法の転換を図る。
- ・外国人教員による授業の比率を高め、外国語学修環境を提供する。
- ・学生面談などの授業時間外での学修指導の充実を図る。

3. 教育評価

- ・シラバスに明示された各科目の到達目標、学修内容、準備学修の内容・時間、成績評価の方法・基準に基づいて客観的に評価する。
- ・海外留学・研修、インターンシップは研修地での評価にもとづき単位認定を行う。



入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3つのポリシー－北海道文教大学（do-bunkyo-dai.ac.jp）](http://3つのポリシー－北海道文教大学（do-bunkyo-dai.ac.jp）)）

（概要）

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

グローバル化が進む社会において不可欠な国際的な視点から、グローバル社会の課題を解決するとともに、北海道を愛し、世界に発信できる意欲をもつ次のような人材を求める。

（知識・技能）

- ・英語の高等学校卒業相当の知識を有している人。
- ・国際的な事象を理解するための社会の高等学校卒業相当の知識を有している人。
- ・基礎・基本的な知識・技能の習得するための勉学の習慣を持っている人。

（思考・判断・表現）

- ・国際社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・表現力を持っている人。

（関心・意欲・態度）

- ・外国語による世界理解と自己表現が可能な言語能力の獲得に、強い意欲を持っている人。
- ・北海道と世界に強い関心を持ち、基礎学力と論理的思考を持ち、課題に取り組む意欲を持っている人。
- ・自らの将来を、海外生活や地域の現場で協働する意欲を持っている人。

学部等名 国際コミュニケーション学科

教育研究上の目的（公表方法：[国際コミュニケーション学科－北海道文教大学（do-bunkyo-dai.ac.jp）](http://国際コミュニケーション学科－北海道文教大学（do-bunkyo-dai.ac.jp）)）

（概要）

国際コミュニケーション力＝言語能力×コミュニケーション能力×異文化適応能力  
オールイングリッシュ・クラスのように、外国語で外国語を学び、文法のポイントは日本語で説明するというように効率的な外国語学習を提供する。外国語で伝え合うことを積み上げていく授業を提供する。

グローバル人材や社会人基礎力に必要なコミュニケーションの基礎理論から学ぶ。

家族、学校、サークル、地域社会、国家とさまざまな集団に属しており、各集団はそれぞれの文化を持っている。自分が「いちばん」ではないこと、文化に優劣はないことを確認しながら、自己成長するために異文化適応能力の向上を目指す。

卒業の認定に関する方針（公表方法：[3つのポリシー－北海道文教大学（do-bunkyo-dai.ac.jp）](http://3つのポリシー－北海道文教大学（do-bunkyo-dai.ac.jp）)）

（概要）

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（国際学）」の学位を授与する。

- ・学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力（技能・表現力）を身につけている。（知識・技能）
- ・世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を身につけている。（知識・技能）
- ・北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。

（知識・技能）

- ・世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。(関心・意欲・態度)
- ・世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)) )

(概要)

教育課程の変遷・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

「グローバル人材」と「グローバル人材」の素養を併せ持つ「国際教養人」の育成のため、「全学共通科目」、「学部共通科目」、「国際コミュニケーション科目」、「キャリア形成」、「語学研修」、「卒業研究」を編成する。

1. 教育内容（知識・技術）

- ・ビジネスや観光場面を中心とした言語使用に焦点をあてた英語と中国語の運用能力の養成のための「国際プロフェッショナル科目」を配置する。
- ・異文化理解力と異文化コミュニケーション力を高める「国際・異文化コミュニケーション科目」の2つの科目群を開設する。

(思考・判断・表現)

- ・地元地域について学び、地域振興や地域貢献、またキャリア意識にもつなげる北海道スタディーズ科目群を配置する。
- ・各学科の専門科目などを通じた学修を基に、自分が専門的に研究するディシプリンを定めた上で参加する「卒業研究プロジェクトⅠ～Ⅱ」を配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・学生の主体的な学びを引き出すために、ニセコ国際研修、短期語学研修、インターンシップ（国内外）、アウトドア・ツーリズムなどの体験的な学修活動の充実を図る。

2. 教育方法

- ・人材養成の目的に則して、講義形式の授業の他に、学生の主体的な学びを引き出すために、少人数授業、習熟度別授業、双方向・学生参加型授業、課題解決・探究型授業、ICTを活用した授業などのアクティブ・ラーニングを実践する。
- ・研修（国内外）、海外留学、インターンシップ（国内外）、アウトドアツーリズムなどの体験的な学修活動の充実を図るなど、教育方法の転換を図る。
- ・外国人教員による授業の比率を高め、外国語学修環境を提供する。
- ・学生面談などの授業時間外での学修指導の充実を図る。

3. 教育評価

- ・シラバスに明示された各科目の到達目標、学修内容、準備学修の内容・時間、成績評価の方法・基準に基づいて客観的に評価する。
- ・海外留学・研修、インターンシップは研修地での評価にもとづき単位認定を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)) )

(概要)

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

グローバル化が進む社会において不可欠な国際的な視点から、グローバル社会の課題を解決するとともに、北海道を愛し、世界に発信できる意欲をもつ次のような人材を求める。

(知識・技能)

- ・英語の高等学校卒業相当の知識を有している人。
- ・基礎・基本的な知識・技能の習得するための勉学の習慣を持っている人。

<p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・表現力を持っている人。</li> </ul> <p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語による世界理解と自己表現が可能な言語能力の獲得に、強い意欲を持っている人。</li> <li>北海道と世界に強い関心を持ち、基礎学力と論理的思考を持ち、課題に取り組む意欲を持っている人。</li> <li>自らの将来を、海外生活や地域の現場で協働する意欲を持っている人。</li> </ul>
--

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： <a href="http://do-bunkyo.ac.jp">教員組織の編成方針 - 北海道文教大学 (do-bunkyo.ac.jp)</a>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
	3人	—					3人
外国語学部	—	5人	3人	1人	0人	0人	9人
人間科学部	—	44人	17人	19人	6人	10人	96人
国際学部	—	3人	3人	1人	0人	0人	7人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		73人					73人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： <a href="http://do-bunkyo.ac.jp">教員一覧 - 北海道文教大学 (do-bunkyo.ac.jp)</a> <a href="http://do-bunkyo.ac.jp">施設 - 北海道文教大学 (do-bunkyo.ac.jp)</a>					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
外国語学部	募集停止	(募集停止)	0%	200人	102人	51.0%	—人	1人
人間科学部	450人	445人	98.8%	1800人	1645人	91.4%	—人	0人
国際学部	100人	48人	48.0%	200人	102人	51.0%	—人	0人
合計	550人	493人	89.6%	2200人	1849人	84.0%	—人	1人
(備考)								



b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
外国語学部	49人 (100%)	1人 ( 2.0%)	36人 ( 73.5%)	12人 ( 24.5%)
人間科学部	395人 (100%)	6人 ( 1.5%)	364人 ( 92.2%)	25人 ( 6.3%)
合計	444人 (100%)	7人 ( 1.6%)	400人 ( 90%)	37人 ( 8.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
国際言語学科：卸・小売り (22.2%) 情報通信 (22.2%) サービス (18.6%) 教育・学習支援 (14.8%) 運輸 (7.4%) 宿泊 (7.4%) その他 (7.4%)				
健康栄養学科：管理栄養士・栄養士・公務栄養士 (61.9%) 総合職・一般職 (28.6%) その他 (9.5%)				
理学療法学科：医療関係 (96.4%) 施設等 (3.6%)				
作業療法学科：医療関係 (93.9%) 施設等 (6.1%)				
看護学科：医療法人等 (47.8%) 公的病院 (32.6%) 大学病院 (10.9%) 公益・企業立病院 (8.7%)				
子ども発達学科：小学校・特別支援教諭 (36.3%) 幼稚園教諭 (25.0%) 保育士 (20.0%) 指導員・支援員等 (10.0%) 総合職・一般職 (8.7%)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

### ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>開講前年度の12月までに来年度の授業を計画し、2月中旬を期限としてシラバスの作成、ポータルシステムへの登録へと進めている。教員には「シラバスの作成に関する研修会について」のFD研修会を開催し、資料「シラバス作成要領」に基づき、①授業の位置づけ、②授業の概要、③到着目標、④授業の方法、⑤ICT活用、⑥実務経験のある教員の教育内容、⑦課題に対するフィードバックの方法、⑧授業計画(学習内容、準備事後学習)⑨成績評価の方法、⑩教科書、⑪参考文献などを示している。シラバス作成後は、シラバスチェック専門部会規程により選出されたシラバスチェック委員により、全科目のシラバスが「シラバスチェック要領」に基づいて内容確認が行われ、3月下旬にWEB公開している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各授業科目について、事前にシラバスに記載された「評価の方法」に基づき評価を行い、単位を与えると共に、入学前に教育機関で得た単位について学内の委員会で審議を行い、適当と判断されたものについて単位を認定している。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
外国語学部	国際言語学科	124 単位	有 無	44 単位
人間科学部	健康栄養学科	124 単位	有・無	44 単位
	理学療法学科	124 単位	有・無	44 単位
	作業療法学科	124 単位	有・無	44 単位
	看護学科	124 単位	有・無	44 単位
	こども発達学科	124 単位	有・無	44 単位
国際学部	国際教養学科	124 単位	有・無	44 単位
	国際コミュニケーション	124 単位	有・無	44 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：[施設 - 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://do-bunkyo-dai.ac.jp)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
外国語	国際言語	810,000 円	円	150,000 円	令和3年4月より募集停止
人間科	健康栄養	810,000 円	200,000 円	300,000 円	
	理学療法	800,000 円	300,000 円	300,000 円	
	作業療法	800,000 円	300,000 円	500,000 円	
	看護	1,000,000 円	300,000 円	500,000 円	
	こども発達	800,000 円	200,000 円	250,000 円	
国際	国際教養	810,000 円	200,000 円	150,000 円	1 年次
		810,000 円	円	350,000 円	2 年次以降
	国際コミュニケーション	810,000 円	200,000 円	150,000 円	1 年次
		810,000 円	円	350,000 円	2 年次以降

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生と教員の人間的な触れ合いを深め、学生生活全般、修学及び進路等についての個別指導を入学時から行い、大学教育の効果を高めるために指導教員制度を設けている。この制度は、教員が学生に対し4年間の修学及び学生生活全般について日常的に相談に応じ、助言を与える学生指導上のシステムで、学生各自の指導教員は、入学時から各学科の専任教員が担うこととなり、指導可能な適正学生数の範囲内において決められる。指導教員は「学業上の助言者」として日常的に学生と面談し、学生の修学、奨学援助・クラブ活動及び就職・進路等の学生生活等に関する諸問題についての指導・助言を行う。積極的に学生と教員のコミュニケーションを図るため、あらかじめ設定する時間帯に専任の教員が研究室で待機し、質問や相談を受けやすくするオフィスアワー制度を設けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 就職活動全般を組織的にサポートしていく「就職等支援委員会」を設けている。学外においては道内外の企業への周知活動と求人開拓を進め、学内においては学生たちが広い視野から将来の方向性を定め、意識を高めていけるよう情報提供と個別指導・相談を行う。年々早まる就職活動にそなえ、より早期からの指導体制で、学生をバックアップする。就職活動準備講座や就職支援セミナーを計画的にスタートし、少人数の学部構成ならではの長を生かし、一人ひとりの個性や資質、希望に沿うようきめ細かに個人面談を行い、段階的に導いていく。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健管理センターには保健師、看護師が常勤し、学内において気分が悪くなった場合は適切な処置、対応をする。学生生活を送るうえで、様々な問題に悩んだときはカウンセリング室でカウンセラーが様々な問題や悩み事について相談に応じ、適切な助言・指導を行う。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：[教員一覧 - 北海道文教大学 \(do-bunkuyodai.ac.jp\)](http://do-bunkuyodai.ac.jp)

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		264人	258人	273人
内 訳	第Ⅰ区分	142人	135人	
	第Ⅱ区分	79人	83人	
	第Ⅲ区分	43人	40人	
家計急変による支援対象者（年間）				一人
合計（年間）				274人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に 連続して該当	一人	一人	一人
計	一人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及び専 門学校（修業年限が2年以下のもの に限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人

(備考)
------

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	一人	一人	一人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	一人	一人	一人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

